



4月13日から10月13日まで

## ポルトガル、2025年大阪万博で青い対話の海を推進

- ポルトガルは、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催される2025年大阪万博に参加する161か国のうちの1つです。
- 「海、青の対話」は、隈研吾氏が設計したポルトガルパビリオンのキャッチフレーズであり、約150万人の来場者が見込まれています。
- 150以上の企業、団体、自治体、アーティストがポルトガルパビリオンのプログラムに参加します。
- 大阪万博と日本をポルトガルでPRする特別プログラム

リスボン、2025年1月16日「海、青の対話」は、日本で開催される2025年大阪万博へのポルトガルの参加テーマであり、そのプログラムは本日、リスボン海洋水族館で行われたセレモニーに、ルイス・モンテネグロ首相、ペドロ・レイス経済大臣、そして、この国際的なイベントにおいてポルトガルのジョアナ・ゴメス・カルドーゾ総合コミッション率いるポルトガルの参加を組織しているリカルド・アロハ総裁を代表とするAICEPチームが出席し、正式に発表されました。

国連安全保障理事会の常任理事国入りを目指しているこの時期に、海洋政策におけるポルトガルのリーダーとしての役割を強化し、海洋保全とブルーエコノミークラスターの持続可能な発展への貢献を強調し、文化を促進し、ポルトガルを訪れ、発見し、投資したいという意欲を喚起することが、2,820万人の来場者が見込まれるこの国際博覧会への参加の主な目的です。

このプログラムは、ブルーエコノミー、イノベーション、持続可能性、文化という4つの分野に重点を置いており、企業、自治体、協会、大学、財団など約150の団体が参加しています。この事業への総投資額は2,100万ユーロで、これは2020年ドバイ万博へのポルトガル参加に割り当てられた金額と同額です。

### 展示会、コンサート、ワークショップ、パートナーシップ

オセアノ・アズール財団、カルースト・グルベンキアン財団、カトリック大学、ノヴァ大学、アヴェイロ大学、リスボン市、ポルト市、そして様々な地域代表などの組織との戦略的パートナーシップにより、ポルトガルのプログラムは、地域代表性、テーマ別、分野別の多様性に富んだものとなります。

カルミーニョ、ディノ・ド・サンティアゴ、ブルーノ・ペルナダス、アナ・モウラ、カマネなどの音楽部門に加え、建築、デザイン、ビジュアル・アート、ファッション、映画、文学などのプログラム、さらには、水産養殖、生物多様性、海洋保全、ロボット工学、ナノテクノロジー、陸上モビリティ、航空宇宙、健康、農産食品などの分野における持続可能なプロジェクトが紹介されます。

ポルトガルパビリオンは、2025年大阪万博へのポルトガルの参加の拠点となり、ポルトガルのクリエイティブチームMUSEがこのために特別に制作した、ポルトガルと海との関係を強調した常設展示が行われます。パビリオンへの入場待ちエリアでは、来場者はポルトガルについての情報を得られるほか、作曲家ディオゴ・アルヴィンによる海洋とポルトガルギターの音をテーマにした音響インスタレーションを体験できます。

パビリオン内には、様々なポルトガルブランド製品を扱うショップ、ポルトガル料理を広めるためのレストラン、パフォーマンスエリア、一時的な展示やイベントを開催するためのスペースも設けられます。

# プレスリリース PORTUGAL NA EXPO 2025



ポルトガルと海とのつながりがテーマの中心であり、パビリオンの建設にはリサイクルされた漁網や網といった素材が使用されます。また、ポルトガルのタイルやコルクも使われます。家具や建材の提供には、ADICO、ANTARTE、REVIGRÉS、CORK RIBASといったポルトガル企業が参加し、これらは建築設計事務所「隈研吾建築都市設計事務所」(KKA)と建設会社「RIMOND」が選定したものです。

## ポルトガルにおける大阪

2025年大阪万博へのポルトガルの参加に伴い、この種の取り組みでは初めて、ポルトガル国内でミラー・プログラムが実施されます。このプログラムは、大阪万博を訪れることができない人々に展示をより身近に感じてもらう、日本に対する認識や、日本とポルトガルの歴史および現在の結びつきを高めることを目的としています。

2024年11月に始まったこのプログラムには、大学、博物館、市役所など30以上のパートナーが参加し、今後1年間、国内各地で展示会、コンサート、討論会、会議を開催する予定です。

## 国際博覧会におけるポルトガル

国際博覧会は1851年に始まりましたが、リスボンで開催されたエキスポ'98によって、海洋というテーマが国際政治の議題に取り上げられるようになり、これによって海洋への取り組みはポルトガルにとっての社会的、経済的、文化的に重要な意義を持つようになりました。近年、ポルトガルは2008年のサラゴサ、2010年の上海、2020年のドバイの国際博覧会に参加しました。

2025年大阪・関西万博へのポルトガルの参加は、ポルトガル投資貿易庁(AICEP)が担当しています。この機関は、外国からの投資誘致とポルトガル経済の国際化を推進し、輸出の増加や企業の国際展開を支援する役割を担っています。AICEPはポルトガル国内のオフィスや約50の市場に展開する国外ネットワークを通じて活動しています。

2025年大阪・関西万博は、今年4月13日から10月13日まで開催されます。ポルトガルデーは5月5日に予定されており、カルミーニョ、カマネ、アナ・モウラ、リカルド・リベイロなどの音楽に重点を置いた幅広い文化プログラムが予定されています。

ポルトガルの2025年大阪・関西万博での参加をぜひご覧ください！

[Instagram](#)、[Facebook](#)、[LinkedIn](#)、[X](#)でフォローしてください。

ポルトガル語、英語、日本語の公式ウェブサイトをご覧ください。[2025年大阪万博のポルトガルへようこそ | 公式ウェブサイト](#)

お問い合わせは [media.expoosaka@portugalglobal.pt](mailto:media.expoosaka@portugalglobal.pt)まで。